N　E　W

２０２３、４、２８

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

（2022 年 12 月 20 日のクラブだよりから）

「本当にしたいものに出会えて変わりました」

～出会いとつながりと学びの良循環～

クラブが終わった後の立ち話で、一人の子が、次のようなことを話してくれます。

前までは、何もしたいことがなく、毎日ゲームばかりしてました。土日などは、朝から晩までしてました。でも今はあまりしません。バスケットに出会えて、本当にしたいものに出会えて変わりました。よかったです。今は、授業中もちゃんと話を聞いて勉強もするようになったので、少しずつわかるようになってきました。ゲームは好きでしたけど、本当にやりたいことだったかというと、そういうものではありませんでした。することがなく暇なので、ゲームで時間をつぶしてた感じでした。やればおもしろいので、ずっとやってました。

このような主旨のこと言います。自分で自分のことをちゃんとふりかえることができる力（自己認識力）をもっています。同様のことをほかの子も言います。なかなかうまくいかなかった子が立ち上がったときには、私たちおとなが学ばされる金言を残してくれますね。

勉強が大事だからと、子どもが本当にやりたいものに制限をかけて、勉強を強制してもなかなか身につくものではありません。いったん身についたように見えても、すぐに剥がれ落ちてしまいます。子どもを学習に向かわせる力は、自分が本当にしたいものに出会うことだということを、子どもたちが教えてくれます。そのことのためならがんばれる。そして、学習によって得られる知識は、そのことのための役に立つ、重要であることがわかるようになる。そうなれば、学習することが楽しくなる。だからまた励むようになる。このことを、私たち教育研究に携わっている者の間では、「出会いとつながりと学びの良循環」と言って大切にしています。

逆に、「やりたいことがない―勉強のおもしろさがわからない―でも勉強することを強制される―やる気が起きないなかで押しつけられても身につかない―成果が出ないので、やっても『どうせわからん』とあきらめてしまう」、この悪循環に陥っている子は少なくありません。「学力向上が課題である」と、学力テストの結果（点数）ばかりを示して叱咤激励するということがよく行われますが、問題はそこではないですね。本当にやりたいことに出会えること、そのことを通して学ぶ楽しさを感得すること、いっしょにがんばれる（励む）なかまをもつこと、そういうなかまになること、こんなことを生み出すのが教育であるべき、と私は思っています。それがあれば、その子にとっての学力はおのずと引き上げられていきます。

Vigata
MBBC